

第2号議案

2022年度事業報告の件

(自2022年4月1日～至2023年3月31日)

1】事業方針と概要

新型コロナウイルス感染症が収束方向に向かい、感染症法上の分類が引き下げられる予測のもと活動再開に希望が持てる中での事業活動となった。

協会設立25周年を機に策定された中・長期計画に基づき、方向性と体制を見直し会員・地域支部の減少の立て直しを目標にして普及活動に注力して来た。重点推進項目を以下に示す。

- (1)普及部主導による計画的な会員増と地域支部拡大策を進めて来た。
- (2)「楽しく健康なスポーツウエルネス吹矢」の方向性を見定め「スポーツウエルネス吹矢協会中・長期計画」として纏め、担当部署を制定のうえ活動を開始した。
- (3)本部の各部とブロック・県協会各部との連携体制を確立し、緊密な情報共有を図って来た。
- (4)指導員の質的向上を目的に認定試験・更新講習方法について諸規定・運営マニュアルの整備を進めた。
- (5)会員の高齢化に配慮した級位・段位認定制度を見直す一方、長く楽しく続けられる事を目的に2023年度の規定改訂に向けて準備を進めて来た。(十段位までの制定及びGS段位の新設他)
- (6)将来への布石としてジュニア会員の範囲を見直すとともに、学生(大学)スポーツ活動への導入を促進して来た。
- (7)国際団体の設立に向け海外支部の拡充に加え規定類の英文化を進めた。
- (8)(公財)日本スポーツ協会への正式加盟を目標に公益活動へ注力して来た。
- (9)初参加となる「ねんりんピックかながわ2022」、栃木県で開催の国体デモンストラーションスポーツ大会・全国障がい者スポーツ大会オープン競技等の実施により知名度の向上を図って来た。
- (10)公認用具の複数企業化については、コロナによる需要の落ち込み回復を待ち認定企業を継続開拓する。

2】事業内容

(1)重点施策

事業方針に基づいて本年度の施策を下記の通り進めて来た。

- 1≫スポーツウエルネス吹矢の普及・振興
 - 1>会員数の拡大

①3,000名の会員増を目指したが結果として1,800名の減少となった。

※入会1,780名、退会3,580名

②普及拡大支援策の策定

・体験会実施拡大策として実施支部に対し体験用マウスピースを支給した。

(63支部が体験会を企画・実施:計86名入会)

・「吹矢の日」として毎月28日をチャレンジデーに設定、普及活動を実施した。

③高齢化に伴う退会増への対策

・年齢を加味した競技種目(G8)、段位認定制度(GS 段位)を見直し規定の改定に折り込んだ。

④ジュニア～学生・団体会員増強を意図して「大学スポーツウエルネス吹矢推進委員会」を中心に学生スポーツ活動への導入を促進した。

2>地域支部の設立拡大

地域支部設立は目標数に対し23支部であった(予測比50%)。

3>特別支援地域の選定と支援促進

(1)特別支援地域の設定と重点支援

①国体デモスポ・全国障害者スポーツ大会(オープン競技)開催県支援

:栃木県協会(5月・10月)

②ねんりんピック開催県支援

:神奈川県協会(11月)

4>協会本部と地域組織との連携促進

(1)全国ブロック長会議の定例開催

理事会、社員総会での決議事項を共有すると共に、普及活動の構想と実情についての情報交換を目的に年3回開催した。

(2)ブロック内への組織整備

ブロックと本部との緊密な連携の為、本部組織に合致した体制整備を進めた。

5>会員の技能向上と指導員の育成

段・級位認定者の実績は以下の通り。

■級位認定者 :.....2,779名

■段位認定者 :.....2,485名

■ジュニア級段位認定者 :.....89名

合計 5,353名(予測比:53%)

※予測:10,050名

6>公益活動については中・長期計画に則り具現化を図って行く。

7>用具に関する新規認定企業の開拓

新型コロナウイルス感染からの脱却を契機に需要拡大を期待、用具審査委員会を中心に種類別の専門企業開拓を進める方向とした。

8>各種委員会の見直し

中・長期計画の実現を目標に組織体制を整備の上、活動を開始した。

2≫大会及び競技会の開催

新型コロナ感染状況を背景に感染対策を実施し、以下の通り開催した。

1>第4回全国スポーツウエルネス吹矢オープン大会

開催日：6月21日(火)

会場：大阪府立体育館

参加者：300名

2>第13回全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会

開催日：9月22日(木)

会場：東京都港区スポーツセンター

参加者：47名

3>第4回全日本スポーツウエルネス吹矢団体選手権大会

開催日：11月28日(月)

会場：東京都墨田区総合体育館

参加者：68組 272名

4>第11回全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会

開催日：11月29日(月)

会場：東京都墨田区総合体育館

参加者：312名

5>第14回全国スポーツウエルネス吹矢ジュニア大会

開催日：12月4日(日)

会場：足立区梅田地域学習センター体育館

参加者：30名

3≫公認指導員・上級公認指導員の認定及び養成

1>公認指導員資格認定試験

①公認指導員資格認定試験を6月と11月全国で開催、160名を認定した。

(対目標:46%)

②上級を含む公認指導員認定試験について同時開催方法を模索中。

2>上級公認指導員資格認定試験

上級公認指導員資格認定試験を6月と11月、全国で開催、53名認定。

(対目標:50%)

3>公認指導員・上級公認指導員教育

指導員としての「あるべき姿」を設定し、教育方法について見直して来た。

教育部役員の指導力向上を目標に人材の発掘に努めた。

4>ライセンス制度実施(認定試験:8月、3月)受験:24名、認定:6名となった。

4≫各部事業の概要

1>普及部

1)活動方針と概要

- (1)「吹矢の力」(健康・呼吸・絆)を重点に普及・振興施策の立案と全国ブロック長会議を通じて促進を図って来た。
- (2)「何時でも、何処でも誰とでも吹矢が楽しめるコミュニティ作り」として地域支部拡大へ注力して来た。

2)活動内容

- (1)全国ブロック長会議を通じ、普及実態把握と普及計画の情報交換を定期的に実施して来た。
 - ① 増員目標3,000名を設定のうえ各ブロック普及計画策定を依頼
 - ② 政令指定都市:2支部、県庁所在地:1支部増を設定のうえ普及推進
(結果として6県が目標を達成)
- (2)普及施策の具体化と促進
 - ①現地における実情把握
:北陸ブロック、九州北部ブロック県会長会議に出席、意見交換を実施。
 - ②普及成功事例の調査と関連会議における情報共有
:北関東ブロックと神奈川県協会の事例を取り上げ、実情調査の上、全国ブロック長会議にて情報共有を図った。
 - ③地域支部の設立策の計画と促進を行ってきた。
- (3)普及活動の見直し
 - ①新規入会の拡大及び退会者の削減策の立案と推進
・入会者数「全国TOP3」支部・実績の顕著な市協会を本部表彰とした。
 - ②体験会等の支援体制の整備
・支援を必要とする県協会への具体的な対応(用具・手法等)を行った。
・体験会の実施手法の見直し(スポンサー探し等)を継続実施した。

2>教育部

1)活動方針と概要

- (1)公認指導員・上級公認指導員の実務を通じたレベル向上を目指したが、コロナ感染拡大により実務開催が充分ではなかった。
- (2)資格認定試験・資格維持講習会の実務は各ブロックへ移譲された。

2)活動内容

- (1)全国ブロック・県協会教育部体制を確立した。
- (2)教育部関連会議における情報交換を推進して来た。
 - ①全国ブロック長会議による指導員情報の共有を図った。
 - ②県教育部長会議(ブロック教育部主催)にて課題の顕在化と対応を進めた。
・全国ブロック長会議結果を受け県会長会議での課題顕在化と共有体制は

完了した。

③協会本部教育部主催による首都圏教育部会議を1回/2か月実施した。

(3)各種試験・講習会の主管

①全国ブロックの(上級)公認指導員資格認定試験を主管した。(6月・11月)

②Aライセンス認定試験を主担当として実施した。(8月・3月)

③ブロック・都道府県単位の公認指導員・上級公認指導員講習会について指導と支援を行って来た。

(4)全国ブロック・都道府県協会教育部の新役員に対する教育を実施した。

(5)資格認定試験及び講習会の見直しとマニュアルの改定については継続中。

(2024年度完成目標)

(6)各種資格認定試験・講習会の学科試験問題・審査基準の作成と改定及び講習会終了基準について見直して来た。

(7)スポーツウエルネス吹矢理論・技術向上に関し「手引き書」の作成を監修した。

(3,200部発行済み:2022年7月25日~2023年3月末)

3> 審判部

1) 活動方針と概要

(1)全国審判体制の整備とともに、競技部及び関連部署との連携による審判技術の統一及び実務の充実を図って来た。

(2)審判の質的向上と公認審判員の計画的な育成を進めた。

2) 活動内容

(1)協会本部主催大会への対応体制の見直しとミスの撲滅

①コロナ感染による大会参加機会が減少したが、少ない機会を捉え審判実務の質的向上を図って来た。

②喫緊の課題として次世代体制の構築について意見交換を実施した。

(2)審判部組織体制の整備

①未整備ブロック(甲信越・北海道)のうち北海道ブロックについて2023年8月に審判員認定講習会を実施、体制作りを開始する方向となった。

②全国公認審判員数の適正化と人材育成

・2回/年(10月、4月)の資格認定講習会により87名を新規に認定した。

・全国公認審判員構成は以下の通り

総数940名(AAA:45,AA:130,A:765名)

③公認審判員としての意識向上教育(公平・公正な公認審判員育成)を実施。

・全国審判部への「審判部便り」発行による情報共有体制を整えた。

④公認審判員の業務と技術の向上

・審判規則・競技規則の知識習得促進

・審判技術に関するQ&Aの作成と公認審判員教育への適用を進めて来た。

(他の競技団体の規則も参考のうえ整備)

⑤審判規則及び審判マニュアルの見直し

・「大会規則」「競技規則」に合わせ改訂して来た。

4>競技部

1)活動方針と概要

(1)コロナ感染症と共存する競技手法を見直し、感染対策の徹底により大会の企画・運営を進めた。

(2)「フィールドスポーツウエルネス吹矢」について実施情報を入手した。

(3)出場者が楽しめる事を優先した団体選手権大会を企画運営した。

(4)コロナ禍での選抜方法を見直し、参加し易くした上で全日本スポーツウエルネス吹矢大会を開催した。

(5)リモート競技による支部対抗戦を試行した。

2)活動内容

目的と位置付けを明確にしたうえで以下の全国大会を運営して来た。

(日程については2>>大会及び競技会日程を参照)

(1)第4回全国スポーツウエルネス吹矢オープン大会

初の東京以外で開催、関西地域における参加希望者の利便性を図って試行した。開催場所は近畿ブロックの全面協力により大阪府で実施(運営協力:大阪商業大学)

感染対策として会場での滞留時間を短くするため連続6ラウンドの競技を試行。密集防止のため表彰式を未実施。

(2)第4回全日本スポーツウエルネス吹矢団体選手権大会

「いい吹矢の日記念大会」と位置付けて開催した。

距離別3種目編成チームを構成、男女混合、他支部との混合も含めて実施。

コロナ禍での実施であり参加者272名と低調となった。

(3)第11回全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会

コロナ禍で選抜大会の開催が出来ないブロック・県協会に対して、ブロック長 県会長推薦選手の参加を可として開催した。

(4)支部対抗リモート競技

支部対抗リモート競技を試行。

3人/チームの支部代表戦を企画してオンラインで試行を行った。

(19回:48支部参加)

5>障がい者サポート部

1)活動方針と概要

スポーツウエルネス吹矢が全国障害者スポーツ大会(国体)の正式種目に採用されることを目標に全国への普及を目指して活動して来た。

2)活動内容

(1)国体開催県に対するオープン競技への参加を促進して来た。

- ・栃木国体(10月29日):栃木県さくら市氏家体育館24名参加
- (2) 予定した全国における障がい者サポート公認指導員講習会はコロナ禍により限られた都県協会のみ実施した。(東京都、茨城県、群馬県)
- (3) 本部→ブロック・県協会障がい者サポート部へ「障サポ便り」の配信を開始した。
- (4) 「公益財団法人日本パラスポーツ協会」へ全国大会の後援申請及び功労賞の推薦等を依頼して来た。
- (5) 都道府県協会に於ける障がい者スポーツウエルネス吹矢大会が開催された。
(9県:三重県、福井県、滋賀県、佐賀県、鹿児島県、岩手県、徳島県、茨城県、福島県:健常者大会との同時実施も含む)
- (6) 障がい者サポート公認指導員の資格有効期限について見直しを進めて来た。
- (7) 以下の行事を実施して来た。
 - ① 障がい者サポート公認指導員資格認定試験
4月:茨城県:新規1名、3年次更新11名
2023年2月:本部:新規2名、3年次更新20名
群馬県:新規6名
 - ② 第13回全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会(9月22日)
港区スポーツセンター:18都道府県、47名参加
 - ③ フレイル予防講座:2023年3月14日 於本部
(東京都健康長寿医療センター主任研究員:河合恒博士)

6>ジュニア育成部

1)活動方針と概要

部長の体調不良もあり、活動が一時停滞した。

2)活動内容

- (1) 第12回全国スポーツウエルネス吹矢ジュニア大会の企画と開催。
- (2) ジュニア記録会については中止した。

7>国際団体設立準備室

1)活動方針と概要

- (1) 新型コロナ感染拡大状況下、新たな海外支部設立は難しく海外支部設立支援と海外会員の獲得に注力した。
- (2) 協会の活動状況について英訳、海外に向けて発信して来た(活動スローガンに対してはポジティブな反応が得られた)
- (3) 諸規定集の重要改定事項について遅滞なく英訳し海外支部へ通達した。
- (4) 国際団体設立に向けて設立時期、構成内容等の骨格について検討して来た。

2)活動内容

- (1) 新型コロナ感染により海外支部の活動は停滞していたが、下半期には活発化の兆しが見えて来た。具体的に
 - ① ニュージーランド総支部は支部員数が60名を超え、新支部開設を承認した。

- ② バンコク・オーキッド支部は2023年秋の設立10周年記念式典に向けて活動が活発化、当室より式典のサポートを予定している。
 - ③ ポーランドより練習用の矢について発注があった。
中心会員が2023年10月に来日予定、直接指導を通じて支部設立を目指す。
 - ④ メキシコも会員が来日して支部練習を見学、現地での活動の参考とした。
コロナの感染収束により現地指導とともに新たな支部設立を進める。
 - ⑤ 会員1名で発足したイランで5名が入会、内1名が本部教室で昇段審査を受験。
日本在住会員を含めて合計7名となった、今後も増員の見込み。
- (2) 段・級位認定試験制度など、海外支部及び海外会員にも影響のある規定類の英訳と通達に務めて来た。
- (3) 国際団体の早期設立を目指し大枠の整備を行って来た。
素案についてタイムスケジュールとともに推敲のうえ設立準備を進める予定。

8> 広報室

1) 活動方針と概要

- (1) 海外を含め多世代へ「スポーツウエルネス吹矢」知名度の向上を図って来た。
- (2) 国体、ねんりんピック等の国民的スポーツ行事を通じ「生涯スポーツ」としての継続的な広報活動を促進して来た。
- (3) 広報窓口として、都道府県協会広報委員と連携した広報活動に注力した。

2) 活動内容

- (1) 会報の定例発行
 - ・年6回(隔月発行)会報を継続して発行してきた。
 - ・トップメッセージを始め、本部行事ほか地域支部・会員情報を紹介してきた。
- (2) ホームページの充実と公式SNS(フェイスブック/ツイッター/YouTube/LINE)のタイムリーな情報発信と内容の強化を継続してきた。
- (3) 若年層への知名度向上を目的に、ジュニア・高等専修学校・大学選手権大会等の情報を公式SNS 中心に発信した。
- (4) 毎月28日を「吹矢の日」、11月28日を「いい吹矢の日」として会員・地域支部活動を活性定着化、カレンダーに活動成果を掲載した。
- (5) 行政・加盟団体・学校の各種事業との連携活動を促進した。
 - ・栃木国体・大会における足利市、さくら市、ねんりんピック開催の神奈川県平塚市また過去に開催された多摩市(東京都)、石岡市(茨城県)等、市長杯大会にも連携して活動した。(平塚市からはフキヤットが招聘された)
 - ・日本レクリエーション協会、各種団体連携事業としてスポーツウエルネス吹矢の紹介ビデオ制作に協力して活用を図って来た。

9> 組織管理部

1) 活動方針と概要

- 会員との接点にある部署として要望の把握と迅速な対応に努めて来た。

入退会状況について関係部署に報告、普及拡大実務を普及部と連携して来た。

2)活動内容

- (1)会員の視点から業務フローを見直し、継続的にツールの改良を図った。
 - ・入金通知の受領についてネット活用により2日間の期間を短縮した。
 - ・支部情報についてネット配信による早期な伝達体制を実現した。
- (2)活動事例、普及成功事例等各種データの分析・情報共有を図った。
- (3)会員・公認指導員情報の管理全般について担当して来た。

10>総務部

1)活動方針と概要

一般社団法人（非営利）としての基本的な運営基盤である総務及び経理業務を実施してきた。

特に本部の移転については構想と実施計画につき主体となって推進した。

2)活動内容

- (1)本部移転計画の立案と実施
- (2)理事会・社員総会の確実な計画立案と開催
- (3)コロナ禍における適正な会計処理並びに予算編成及び決算処理の実施
- (4)教室・カルチャー教室の活性化と適切な運営
 - ・本部教室の稼働率向上を含めてプロジェクトチームによる施策を策定した。

11>大学推進委員会

1)活動方針と概要

- (1)大学への導入を視野に学生(大学)スポーツ活動への導入を促進して来た。
- (2)大学生による大会企画運営の実施と運営サポートを進めた。(4大会:32人)

2)活動内容

- (1)第5回関西学生対校選手権大会の実施(大阪商業大学アリーナ:8校101人)
- (2)第2回関東学生対校選手権大会の実施(明星大学:ゼミ対抗24人)
- (3)日本レクリエーション協会のレク・インストラクター認定講座にスポーツウエルネス吹矢が導入され、東京・大阪会場で複数の大学が参加した。
- (4)大学関係者によるスポーツウエルネス吹矢と健康・心理面調査に協力した。
(帝塚山大学/大阪国際大学/明星大学)

以上